



長 崎 県
中 小 企 業 家 同 友 会

DOYU

ニューズ
21

E-mail jim@nagasaki.doyu.jp
 U R L http://www.nagasaki.doyu.jp

本部事務局 長崎市栄町1-20 大野ビル5F ☎(095)822-0680 FAX (095)824-4623

「私たち中小企業家が長崎県を牽引していく！」
～経営を極めていく企業家集団 会勢700名を達成しよう～

大村・諫早・島原3支部合同例会 開催！！

日時：6月16日(木) 18:30 会場：諫早観光ホテル 道具屋

テーマ：事業承継から拡大へ～ 中小企業は、トップの信念が企業の未来を創造する～

報告者：(株)岩崎食品 代表取締役 岩崎 栄司 氏



大村支部 情報広報委員会

今回は、3支部合同例会にふさわしい内容でした。

長崎に住んでいれば、一度は口にしたことがある「角煮まんじゅう」。長崎が誇る食品メーカーである、(株)岩崎食品の代表取締役 岩崎栄司さんに来ていただきました。今回は、岩崎さんと大村支部の金井アドバイザーとの対談形式で行われました。

あいさつ・自己紹介を経て、岩崎さんの最初の話は父親のことについてでした。自分が何かしようとする、よく衝突されていたそうです。しかしある時、父



親に「出て行け！」と言われた際に親の悲しそうな表情に気付き、決意を胸に「ここは自分の会社だ！」と宣言したそうです。出ていかない、逃げないと決意したその時から、自分の周りのいろんな問題が解決できるようになったと岩崎さんは言います。

岩崎さんは当時、新商品の開発にかなり尽力されたそうで、3年で100個以上の商品を作っては失敗されてきたと言います。父親に「まずはおいしいものを作れ。コストを下げるのはそれからだ。」と、お客様に喜んでもらうことが一番だという思いを託された岩崎さんは、母親と一緒に食べたトンポーローをヒント

目次

大村・諫早・島原3支部合同例会	1	長崎県地域経済構造分析に関する講演会 参加報告	20
6月例会報告	3	一億層活躍時代の経営戦略セミナー 参加報告	20
中同協九州・沖縄ブロック第10回支部長・支部役員研修交流会 参加報告(第2弾)	8	雇用関係各種助成金等説明会 開催報告	21
中同協 中小企業憲章・条例推進月間キックオフ集会および総括会議 参加報告	13	会員活躍	21
九州・沖縄ブロック代表者会議及び中同協 第5回幹事会 参加報告	14	事務局企業訪問	22
第19回 女性経営者全国交流会 in 旭川 参加報告	14	入会・交代会員紹介	23
佐世保支部 第1回 交流イベント 開催報告	18	8月例会案内	24
プライアント(株)(佐世保支部 橋口会員)経営計画発表会 参加報告	18	理事会議事録 抜粋	25
熊本同友会経営理念入門塾(佐世保支部 村上 敦子会員)参加報告	19	会員消息・会員数	26

に「角煮まんじゅう」を作り上げたそうです。しかしコストが掛かりすぎるということで、一度は商品化できないのではないかと父に懸念されていたそうですが、社長であった父をうなずかせるために何度も原価計算を行い、やっとの思いで商品化できるようになったそうです。そのエピソードに会場中も、岩崎さんの凄みを感じていたようです。

また社員教育に関しても岩崎さんの考えに感銘を受けました。働いたことのない人材を一人前にしてこそ企業の役目と考えている岩崎さんは、新卒者を対象に、最後は社長の面接で笑顔、率直さのある人材を採用しているそうです。入社してからも、「どうしましょうか?」という質問を、「こうしたいのですがどうでしょうか?」と、考え提案できる社員になってもらい、社長自身のみ考えだけでなく、より良い商品づくり

をする為に、社員に考える力を持たせているそうです。また、自分の失敗から、責任を取らせすぎると報告しなくなるのがわかったので、ダメな社員が居ても、失敗をきちんと報告することで責任を問わず、徐々にでもよくなるまで待つという考えを持っているというお話を聞き、グループディスカッションでは岩崎さんの社員教育を真似したいとの意見も出ていました。

そんな岩崎さんの夢は、売上・利益はもちろん、社員の収入も含めて、長崎でのナンバーワンの食品会社になる事だそうです。経営者としても人としても、そして父としても尊敬できる岩崎さん。こういった方になりたいと、一つの目標を感じる事ができたそんな例会でした。

諫早支部 東村 久儀

会員105名、オブザーバー22名の参加で開会されました。スローガン唱和に続き、大村支部長 上谷直人さんの支部長挨拶の後、通常の例会とは違い、今回は副代表理事 金井政春さんの質問に岩崎さんが答えるというスタイルで報告が始まりました。

高校1年で中退し調理士学校に進まれたそうです。岩崎食品に入社後は、社長である父親に認めてもらおうと思い、新しいことをしようとしたら父と衝突してよく出て行けと言われたそうです。3年間で100の商品開発を行い、失敗の連続で挫折しそうになりましたが、失敗を恐れずに前に進んだ結果、現在があるそうです。すごい忍耐力だと思います。人材確保についても、一生懸命さ、素直さ、笑顔、この3要素を採用の条件とし、学歴は関係ないそうです。

人材教育については、社員さんと短時間パートナーさんも勉強会に参加し、販売部門、工場部門に分かれて毎月グループディスカッションを行っているそうです。

いつも「社長どうしましょう?」と社員が聞くのは駄目、その会社は社長がいなくなるとつぶれるそうです。社員には「社長、こういう風にしたいのです

がどうでしょうか?」と提案させる。そして社長が判断する。失敗したら会社が責任を取る。失敗して4000万の廃棄を出した時も、社員には責任を取らせなかったそうです。責任を追及するより、起こった問題の原因、対応、対策が大切。そうしないで社員に責任を負わせると、起こった事を報告せずに隠そうとします。

売り上げ(利益)が目的ではなくお客様に喜んでもらうことが目的、お客様に喜んでもらい社員も喜ぶことが大切。問題が起こったときに考えるのではなく問題を自ら作り上げて解決していくことが成長につながると言われていました。

社員は給料が多くても自分が役に立っているという存在意識、将来の希望がなければ辞めてしまう。岩崎食品のビジョンはとの質問に対し、長崎で売り上げ(利益)ナンバーワンの食品会社になること、そして社員の収入もナンバーワンを目指すということ等、常に社員の皆さんのことを考えておられました。

最後に同友会について、同友会の皆さんは理念があり仲間意識がありすばらしい会だと思いますということで締めくくられました。

貴重なお話をいただき大変勉強になりました。

島原支部 荒木 亮

岩崎さんは冒頭、家業を「出ていけない」ではなく、「出ていかない」決意をした時から経営者としての覚悟を決め、中卒である自分はどこか同世代に負けたくないという意識を常に持ってきたと話し始められました。岩崎さんのお話を聞いていると「創造→行動→検証」を常に繰り返しされています。

商品開発について。3年で100以上もの試作品、そして100以上もの失敗をしてきた。しかし失敗したことで学ぶことがたくさんあった。またその中で尊敬するお得意先から成功するヒントをいただき、新商品は関係ある皆さまの意見を参考にし、皆さんに助けられてできたようなものだ、と話されます。例えば、当時メインに販売していた商品は餃子や肉マンだった。しかし夏場に肉マンは売れない。導入した機械代



を払えない現実をどうにかできないかと考え、肉マンでつくれるようになった生地を使用して新商品が出来ないかと完成したのが角煮まんじゅうだった。角煮まんじゅうはヒットしたが、どんな良い商品でも、売上が落ちる時期はくる。角煮まんじゅうにもその時期がきた。検証してみると、餃子（おかず・日常）・角煮（趣向品・非日常）だと確認。新たな販路を模索し、物産展に出店することで活路を見出した。

ヒトについて。毎年新卒採用をされており、ヒトを育てることが企業の責任であると話されます。ある日、きつい現場と責任を任せて、十分な給与を渡していた

自分の右腕と思っていた幹部社員が辞められたそうです。このとき岩崎さんは、お金で人は動かないということ学んだそうです。

また併せて問題を解決する組織力をテーマに掲げられています。「社長どうしましょう？」という一方的な質問は禁止で、常に社員自身の意見を求める。課題を自ら見つけて解決する力を育てられています。

他にも勉強になる事がたくさんありました。

- ・新商品をつくる時は、コストではなく本当に美味しいものをつくれ。
 - ・父と働くで決めた時点で、社長は1人。最終的な決断決定権も1人。どうしたら社長がyesと言ってもらえるか考えてきた。
 - ・価格は安くしない。
 - ・会社の一番の意味は継続すること。1%でも倒産する可能性があるならトライしない。できる範囲内で投資する。
 - ・ボートで海を渡ろうとすると冒険。タンカーで海を渡ろうとすると航海（投資）。冒険と投資は違う。
 - ・世の中のせいにしない。
- 今後の経営に活かしていきます。

長崎浦上・長崎出島支部 合同慶祝例会報告

日 時	6月21日(火) 18:30
会 場	サンプリエール
慶 祝 対 象 者 (敬称略)	〈古希〉 飛田 政光 (浦上) 星永 瑞輝 (浦上) 前田 富彌 (浦上) 三上 寿美子 (浦上) 森下 久太郎 (浦上) 伊崎 孝幸 (出島) 清島 瑞恵 (出島)
	〈還暦〉 荒木 健治 (浦上) 松尾 照美 (浦上) 山口 芳和 (出島) 吉澤 健 (浦上)
	〈厄入〉 鹿島 啓介 (浦上) 西浦 友也 (浦上) 佐々田 剛史 (出島) 中村 健太郎 (出島)

長崎浦上支部 西本 俊昭

お客様の入場で、三味線の演奏が流れるといった趣向が凝らされ、いつもの厳かな雰囲気とは違った華やかなオープニングとなりました。

今回は浦上11名、出島4名が慶祝対象者で、当日浦上からは古稀の飛田政光さん、前田さん、森下さん、還暦の松尾照美さん、山口芳和さん、吉澤支部長、厄入の鹿島さんが出席されました。

DVD放映の後、長崎出島支部飯田支部長より祝詞があり、記念品贈呈後、慶祝者の挨拶がありました。



その後、加瀬さんの司会で祝宴が始まり、津軽三味線の軽快な音色が会場に響き渡りました。

今回の新しい試みとして、「同友会格付けチェック」というテレビ番組でおなじみの余興を行いました。会員企業の自慢の商品とスーパーなどで広く流通してい

る商品を食べ・飲み比べするという企画でした。正解率の一番悪いテーブルには、特製わさび入りシュークリームを食べていただくという罰ゲーム付きでした。会場全体で一体感をすごく感じる例会となりました。

二次会は、長崎浦上支部は魚河岸がれーじ駅前店に急遽集まり支部の団結力を感じました。

慶祝対象者の皆様本当におめでとうございます。皆さんに喜んでいただき、私も実行委員として大変嬉しく思いました。



長崎出島支部 中村 こずえ

前日は大雨で思案橋は浸水等の被害が発生、慶祝例会当日も雨が降る中、午後5時、伊勢宮でお殿様7名を囲み、清祓いが厳かに執り行われました。私は清祓いは初めての参列でした。慶祝対象者の皆さんの清祓いの後玉串の奉納、参列した私たちも玉串奉納をさせていただきました。粛々としたなかで清祓いは無事に終わり集合写真を撮る頃には雨もあがり、あたかも神事を祝っているかのようでした。

サンプリエールさんの御好意で5時半には伊勢宮へお迎えのバスが到着。皆さんを乗せて、いざ、例会会場へ。

到着したお殿様は控室にて休憩、古希と還暦の方にはちゃんちゃんこを着用していただき、準備もばっちりです。受付開始の時間になり、お祝いに参加される長崎両支部の会員達が集まり始めると例会ムードも高まってきました。

今年の実行委員会は楽しい慶祝例会にしようと色々な意見を出し合い、この日を迎えました。

まず入場です。ドアが開くと同時に三味線の演奏！清祓い、昔からの風習のちゃんちゃんこのお殿様を迎えるのに相応しい演出でした。その後、お1人お1人を紹介するDVD上映と続きました。このDVDは長崎出島支部の上原さんがいなかったら作成出来ないものでした。上映会のナレーションは菅原さん、テロップとずれないように読み上げるのは大変だったでしょう。



余興は諫早の石井流津軽三味線のお三方にお願いしました。代表の石井さんは諫早支部の食楽亭の土井さんの妹さんです。素晴らしい津軽三味線の演奏に会場からは「もってこーい！もってこーい！」の掛け声があがっていました。

会場の盛り上がりもピークになった所で「同友会格付けチェック」の始まりです。こじまの角煮、観月のごま豆腐、五島灘酒造の焼酎、魚河岸ガレージのカステラ、サンミシエルのシュークリームはどちらなのかをテーブル毎に当てるのですが、なかなか難しい物もあったみたいです。皆さんに喜んでいただけて実行委員達もやりがいのあった例会でした。これも偏に協力してくださった全ての方のお陰です。

ますます、浦上・出島両支部の結束も強くなったと感じた素晴らしい慶祝例会でした。



佐世保支部 例会報告

日 時	6月17日(金) 18:30
会 場	佐世保市民会館
テ ー マ	地域社会に貢献する 「日本一のローカル企業」を目指す！
報 告 者	(株)智翔館 代表取締役 直江 弘明 会員



佐世保市で25年間学習塾を経営されている智翔館の直江さんに報告いただきました。

直江さんはその家庭環境により、幼少のころからのびのびと育てこられたのかなという印象がありました。

明治大学卒業後に勤務したアパレル関係の会社では非常に厳しい労働環境にもかかわらず、“石の上にも三年”の意識で乗り切られました。配属された部署は、幹部社員への登竜門である事を知り、期待をされていたのだなという事がわかりました。

仲間との縁で学習塾の経営を始めることになった後も、直江さんらしい豪快な失敗もあったようです。山あり谷ありの経営体験を惜しみなくお話しいただきました。失敗した際、その失敗を乗り越える時に本当に前向きな考え方をされているのだなというのがとても印象的でした。

また、直江さんは、「地域」を意識した言葉を多く話されたという印象がありました。「地域」から世界へ羽ばたける人材の育成であったり、または今後予想される人材不足への対策等々、中小企業家だからこそ出来る色々な取り組みのヒントを得られたような気がします。

細かい手段もそうなのですが、今回の話の本質は同友会の学びにもある「経営者の役割」を意識させられる報告ではなかったかと思いました。「経営者」はその会社が良い会社であるために、様々な取り組みを進めることが必要であると同時に、その会社が地域の役に立っているかの検証もしなくてはいけないと思います。また、共に働く従業員には夢を語り、その夢の実



現のために何をすべきかを提案し、実行していく。そのことにより「良い会社」づくりが出来るのではないかと思います。

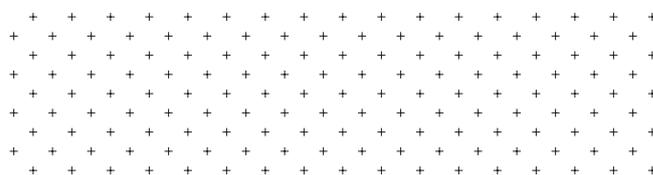
直江さんの、夢を語り、その夢を実現するための手段を提案したり実行していかれた話は同友会が求める理想の経営者像ではないかと思いました。

大きな失敗を乗り越えてきた直江さんだからこそ、「良い会社」であるための努力を怠らずに進まれているのかと思います。

また、今回は同友会で活動することにより、一社では出来ない「良い経営環境を作る」というところも意識をされているのだなと思いました。直江さんの取り組みが、結果的には佐世保市の中小企業家の経営環境を良くしていくのではないかと感じました。経営環境は一社で変えていくことは難しいと思います。地域を良くすることで「良い経営環境」を作り、「良い会社」を持続させるには「良い経営者」である事が必要であり、そのための近道は同友会である事を改めて確認できる例会でした。

惜しみなく、経営体験の報告をいただいた直江さんに感謝を申し上げます。ありがとうございました。

(文責 原田 良太)



北松浦支部 例会報告

日 時	6月16日(木) 18:30
会 場	松浦シティホテル
テ ー マ	中小企業のアジア展開 ～最近の特徴と動向～
報 告 者	(株)商工組合中央金庫 佐世保支店長 田口 恵介 氏



商工中金は、全国行員約4,400名(内海外勤務約20名)。田口さんは、商工中金勤務26年。海外勤務される行員約20名のお一人で、その海外歴は、約10年【中国深セン、香港、バンコク等】の中でバンコクには4年4か月駐在され、商工中金バンコク事務所の立ち上げをされ、それが一番の思い出だったと話されていました。

海外(中国、アジア)は、現実私たちの生活の中でも外してはいけないというものとなっています。統計を活用しながら田口さんが経験されている当時の勤務地の状況を加味しながらの報告で、数字面や現実面から正直難しい部分もありましたが、反面かなり興味を持ちながら海外進出を身近なものと感じた会員や実際にしている何人かの会員もいたようです。

(報告内容)

- ①2014年アジア各国の主要データ
- ②最近の投資傾向
- ③日本の直接投資
- ④各国動向
- ⑤中小企業の海外進出に対する意識調査から

①について

※中国人口約1367.8百万人 一人当たりGDP 米ドル7,589 ※マレーシア約30.3百万



人 一人当たり米ドルGDP 10,803 シンガポール人口約5.5百万人 一人当たり米ドルGDP 56,319 ベトナム人口約90.6百万人 一人当たり米ドルGDP 2,052等 日本の一人当たり米ドルGDP 約36,331【日本円で約400万円】

シンガポールは、日本の一人当たりGDPの1.5倍とのお話があり、またカンボジアなどはすごい勢いで伸びているとのことでした。

マレーシアとタイは隣国同士でもタイの所得は、マレーシアの約半分。またタイなどには、車の修理という意味は通じるのですが、実はメンテナンスという言葉や業種がないとのことでした。ここは今後のビジネスチャンスに繋がるかも？

お国柄タイ、バンコクなどのんびりとした人が多く、そのせいか商品の品質も不安定要素もあり、海外支社の駐在員など仕事をする上での問題は、何がありますかとの質問において、実は「日日問題」との回答。これは、日本の親会社が現地状況や性格などを理解できておらず、駐在員などが困っていることを指す言葉だそうです。

短時間で盛りだくさんの報告でしたので今回ここに記載できない旨ご了承ください。

今回の報告内容をお聞きしたい会員の方がいましたら同友会メンバーとして田口支店長へご連絡されてはどうでしょうか。

(文責 松永 いづみ)



五島支部 例会報告

日 時	6月24日(金) 18:30
会 場	観光ビル はたなか
テ ー マ	今こそ、同友会 ～企業倒産を経験して～
報 告 者	(株)ミヤタ 代表取締役専務 宮田 正一 会員(大村支部)

父親の会社で働いていた時に企業倒産を経験し、様々な職を経験することになり、その経験のときに友

人らのあたたかい支えが有り、その関係が今でも続いているとのこと羨ましい感じがしました。

その後再起を目指すのですが、以前の社員に声をかけたところ見事に全員に断られ、それまでの自分がかに世間知らずで社員のことを考えず経営側の一人として行動していたかを身につまされたと仰っていました。それから以前の伝手や家族、友人の力を借りて再スタートが切れたのですが、以前の商売の無駄なところを削ぎ落として運営した結果、初年度から利益を出すことができたそうです。



そんな懸命に事業を続ける中、先に同友会に入っていた方に声を掛けられ、経営フォーラムを経験し、もっと様々な経営の勉強をしなければいけないということを実感し、以後、同友会活動に取り組まれているそうです。宮田さんの報告の中で「学んだことを実践することが大切」という言葉がありました。



今後も同友会で学び、それを自社企業、地域で実践していくことが社員の幸せ、地域への貢献になることを改めて感じました。

(文責 勝本 政裕)

青年経営者会 例会報告

日 時	6月24日(金) 19:30
会 場	ZAC長崎中央店
内 容	慶祝例会



6月は、厄入りの会員の厄を皆で祝う慶祝例会でした。今回の慶祝対象者は1976年生まれの、(有)長崎新聞道ノ尾・滑石販売センターの鹿島啓介さんと社会保険労務士出島労務管理事務所の西浦友也さんでした。(西浦さんは、今回は残念ながら体調不良のため欠席でした。)

会場は安井さんのお店であるZAC長崎中央店。乾杯後、主役の鹿島さんを囲んで歓談。刺身、激辛パスタ、激辛ピザ、子悪魔ピザなどたくさんの料理を、田本さんの五島灘や五つ星を飲みながら楽しみました。サプライズで、安井さんのサクソ生演奏もありました。

24時を過ぎるまで鹿島さんを帰したらいけないため、二次会で分部さんのお店へ。分部さんのご厚意で、



メンズのお店の方を貸切状態にさせていただきました。ここでは思う存分騒いだったので、鹿島さんと西浦さんの厄も逃げ出して行ったと思います。そして三次会、シメの食事までお疲れ様でした。

忙しい金曜日の夜にもかかわらず、快く会場を提供して下さった会員の皆様、また集まってくださった皆様、本当にありがとうございました。これも鹿島さんと西浦さんの人徳のなせる事だと思えます。そして、お二方のこれからの益々の御発展を祈念致します。

(文責 橋本 裕次郎)

副代表理事 金井 政春

開催地が隣県の佐賀で有る事、来年は大村にて開催される事を鑑み、2年振りに参加しました。九州各県から143名の参加でした。長崎同友会からは26名。開催地佐賀同友会の34名に次ぎ、福岡同友会と同数の2位でした。長崎同友会の意識の高さを他県にもかなりアピールする事ができたと思います。今回参加出来なかった役員さんも次回は必ず参加されることを期待します。

最初に中同協副会長 中村高明さんより問題提起がありました。同友会での学びを企業経営にどう生かすか？同友会での学びを企業で実践し、実践した成果を同友会運動に還元する。これが同友会リーダーとしての心構えと責任と報告されました。また役員になる事により組織経営づくりに役立ち現場から離れる事により、社員へ権限委譲ができ、営業、製造、総務・管理等責任

者の育成と社員教育ができる。役員は企業づくりにおいて会員の手本とならなければならないとの報告があり、恥ずかしく顔が赤くなると同時に会員さんに申し訳ない気持ちになりました。同友会においても会社においても私の本気度が足りない事を痛感しました。

2日目は「条例づくりで地域の未来を切り拓く」と題して和田さん、米田さん、鎌田さんの3氏の強い絆と積極的な活動が成果を挙げている事例報告でした。特に教育と企業づくりについての報告の中に大学側の課題、学生の課題、企業の課題について深く連携することによりそれぞれの課題が克服され地域貢献に繋がっている報告が印象に残りました。また、条例推進運動は同友会運動の延長線上にある、との報告にピンとこない私の勉強不足を実感した次第です。

同友会歴19年目を迎えています、長さでなく中味が大切である事を今更気づかされる役員研修会でした。

専務理事 西村 浩文

役員研修会の醍醐味はグループディスカッションにあると思う。メンバーは九州各県の高い志を持ったリーダー達。皆同じベクトルを持っており、本質を外れない熱のこもったディスカッションになる。また、各県の話の聞けば、長崎同友会の立ち位置を知ることができる。しっかりとできている事もあれば、遅れているなど感じることもある。

ディスカッションはテーマに沿って行うが、白熱すると様々な方向に派生していく。そして他県の事例はとても参考になる。その中に長崎でも取り入れたい事例もある。例えば、出席が滞っているベテラン会員さんを参加させるには？という問いには、福岡同友会の事例が参考になった。「企業承継塾」を設け、ベテラン会員や若手にも声をかける。承継は多くの会員さんが興味を持っているテーマ。呼びかけもしやすいし、ベテラン会員が参加できる「場」となっている。また、討論テーマ「同友会運動と企業経営は不離一体…」について、まず同友会活動を難しく考え過ぎないこと。自社でやりたいことを同友会で試してみる気持ちで行えば

楽しんで活動できる。自社で行う営業活動や企画立案が同友会で行う仲間づくりや例会づくりと同じことである。そして大前提として、自社の経営が良くなること。まずは自分自身の成功体験が必要。その先に、自社だけではなく地域が良くなることを考える。地域づくりを行うことが他団体とは異なる同友会の本質だと確認できた。

2日目は愛媛同友会での条例づくりを学ぶ。愛媛の条例における特徴は「教育」を含んでいる事。なぜ「教育」が条例に必要なのか？それは、中小企業における人材不足等の問題は教育問題であるからだ。まずは学校教育において、公平な職業観や勤労観を教えてもらう必要がある。教育は社会教育、社員教育ともつながっていく。そして条例の推進運動は同友会運動の延長線上にあり、且つ到達点であること。また、同友会運動は「人を生かす経営」を行うことであると理解。それ故、役員は実践しておらねばならず、最低でも理解していることが必要だ。私達は「人を生かす経営」を実践することにより、地域社会に「憧れられる存在」にならねばならない。

仲間づくり委員長 西山 展司

初めての参加、佐賀ということで気軽に申し込んだ。1時間前に会場入りし緊張はすることなく余裕があった。

中同協副会長 中村さんの問題提起から始まった。次に各県の事例報告。学んだことは「仲間づくり」での

「量質転化の法則」。量は質を保証し、質は量を保証する。同友会運動・活動は経営や仕事に直結する、すなわち不離一体である。と結論づける。同感した。

「企業づくり」で、社員さんと年一回の個人面談、年二回の社内アンケートを通し、社員さんの意見を社内に取り入れることの重要性。「地域づくり」で、地元行政と地元大学との連携 大企業優先の求人斡旋を中小

零細企業に。「同友会づくり」で行政のトップや金融機関のトップが注目する同友会に。数の力を有するために、退会をしない様な仲間づくりの必要性。新入会員オリエンテーションの大切さ。同友会の価値を伝え続けること。同友会を異業種交流の場だけにしてはもったいない。レベルの高い経営の話し合いをすることは楽しいこと。素晴らしい多くの経営者が経営の手法と共に勉強出来ること。参加すること。

1日目は多くのこと内容の濃いことを聞いて話し合っただけで終わった。懇親会も大変盛り上がりたくさんの人と名刺交換した。同友会の仲間たち、またその場所にいることの出来る自分を誉めてあげたい。そしてまた、この素敵な会の存在を知らない人たちに

伝えたい衝動がわき上がった。

2日目は愛媛同友会の3名によるパネルディスカッション。産学官+民の連帯で地域の学校長・PTAも加わりインターンシップや教育機関との関わりも深く、最終教育機関としての「地域に愛される企業を創ることを目指す」企業づくりを行っている。中小企業振興条例は基本条例と記さなければ、絵に描いた餅であることなど、いろいろな実践報告が示された。

私は同友会に入会して6年目となるが学んでいなかった。貴重な会費を無駄にはしてはいけないことを再認識することになった。この学びを実践し、経営者としての自覚をさらに強くしていきたい。素晴らしい有意義な2日間ありがとうございました。

経営労働委員長 宇土 敏郎

今回初めて、参加させていただきました。以前から「もっとも同友会の活動意義がわかる会」と聞き及んでいましたが、驚きと感動と考えさせられた2日間でした。まず問題提起、最初から同友会に入った目的を考えさせられました。活動の意義、歴史、心構えを再認識させられました。

次の事例報告で経営指針、条例と共同求人、仲間作りと柱となる活動の取り組みが報告され、その後のグループディスカッションが流石役員さんたちでした。話の内容が深く、問題意識も高く、驚きの活動実績も出て来て、あっという間に過ぎました。

しかし、2日目に更なる驚きが待っていました。愛

媛同友会の報告を聞き、条例づくりは同友会活動を行政と良好にすすめていくためのものと考えていた自分が大変な間違いをしていたと思いました。地元で根付いた中小企業にとって地元の人達から選ばれる企業になるために人づくりを実践する。その為には条例はモノサシになると知り、啞然としました。更に未来デザインゲームの存在、とにかく驚きの3時間でした。

九州内の同友会の活動にもまだまだばらつきがあることも分かりましたし、長崎の会員さんにも、もっとも気付いていただきたいことも分かりましたし、自分の役割も再認識できました。来年はさらに中同協役員研修会と合わせて大村で開催されます。気を引き締めなければと考えさせられました。

諫早支部 石橋 ゆかり

開会の挨拶が終わると中同協副会長の中村高明さんが問題提起をされた。

役員会の時は、お互いの企業の話をして膝を割って話せるのが同友会ではないか、など経営者にとってやはり同友会が不可欠であると話された。

「Yes、But、Fight」

これは、「社員に対して、認めてあげる、しかし、頑張る」という意味で、大事な事の一つだそう。同友会での学びを自社に取り入れて企業が益々発展していけるようにしたいとの事でした。

次に各県の事例報告。宮田さんは、大村市で漬物を製造している。年に3回会社の経営理念をパートや社員に説明をして社員の幸せを目指して、日々努力している。安心して働ける会社、仕事を通じて世の中の役に立つという信念を掲げ、社員、パートが自分の好きな時に有給が取れる会社をしたいとの事であった。

地域づくりは、福岡同友会 有田さんが話された。筑後には5つの市があり地域づくりとして条例づくりをされて、行政とアポイントメントがとりやすくなったそうだ。そして、行政から相談を受けるようになり同友会が、地域づくりに携わっているとの事だった。

地元大学の求人活動として、地元には雇用を作らないといけないと思いつつも、地元には受け皿がなく、大学側も中小企業と一緒に地元で就職したい学生を支援したいとの事だった。

同友会づくりについては、沖縄同友会の真栄田さんが話された。

- ・同友会に入会しているけど、例会に来ない人は、来てもらえるにはどうしたらよいか？
 - ・返信率100%を達成するにはどうしたらよいか？
 - ・出席しない人は、何か理由があるのか？
- などの質問があった。その議論で盛り上がったが、答えはなかなか出なかったのが、各自の宿題となった。

諫早支部 杉本 誠二郎

佐賀同友会会員の皆様の歓迎の中、同友会の意気込みを感じつつ、26日のみの出席しかできませんでしたが、有意義な役員研修交流会でした。

問題提起・・・中村中同協副会長

「同友会運動と企業経営は不離一体」を話され、同友会の歴史、同友会の目指すところ、労使見解の大切さなど原点に立ち戻り同友会づくり、自社づくりに邁進する姿勢を再認識しました。また、仲間づくりは「量は質を保証し、質は量を保証する」という言葉に感動を覚え、各県の全企業数の10%の組織率を超えると露出率が高まることは実感でした。はっきりとした数の目標、やはり、そうでした。前仲間づくり委員長(私)の時にこの事を深く会員の皆様が目標として認識されたら、悩む必要はなく、言い訳はいらない行動になっていたと反省いたしました。不離一体の意義、前輪後輪の意味を頭に叩きこみました。もう少しお話しを聞きたかったと思いがらの感動でした。

企業づくり・・・長崎同友会 宮田さんの報告。

何度も報告をお聴きしていますが、毎回、納得させられます。求人を出したらすぐに集まった時期と今は集まらない。障がい者を雇用されリズムを構築、社員さんのご協力あり。そして、社員の方々へ年間300万円の売上を増さないと急な休みなどに対応できない、17名→20名増員を維持できないという意識付けをなされている。パートの方々の高齢化。なかなか退社されないという素晴らしい会社ですが、若返りが大切との課題も話されていました。

同友会づくり・・・福岡同友会 有田さんの報告。

条例制定運動の報告でした。筑豊地区には5つの市があり、未制定は残り1市のみとの勢いあり。任されたのはいいが、訳がわからず無我夢中。説明会を開催するも行政は中身は知らない。また、商工会議所は同友会は勝手にしてとの考え。ただ、続けていくうちに、行政の方から同友会へ相談にくるようになった。また地元雇用をつくる。受け皿がない。求人するも学校側も中小企業を知るすべがなかった。求人をだしても振り向かない理由がだんだんわかった。

福利厚生がちゃんとしていて、毎月ある程度の給与を確保。それが出来ている企業なのかどうか？自社のためだけに求人をしていたのではないかとの気付き。初任給は他のところより高めにしたら面接が増えたという言葉が印象的でした。また、タイの感動CM映像

がまた感動いたしました。

同友会づくり・・・沖縄同友会 真栄田さん

2020年、目標1500名。1000名を超えたら、行政・銀行から注目されるようになった。

例えば「同友会は道場」と話された。その門下生。経営談義、数字など。沖縄の発展に繋げるには会員数を増やし、また異業種交流をする意義がある。経営者だったら本気で勉強しませんか？と問えば、入会する。

仲間づくりは自社の発展につながり、同友会の活動の中から言っている事とやっている事の違が見える。同友会できちんと経営を学び続ける。

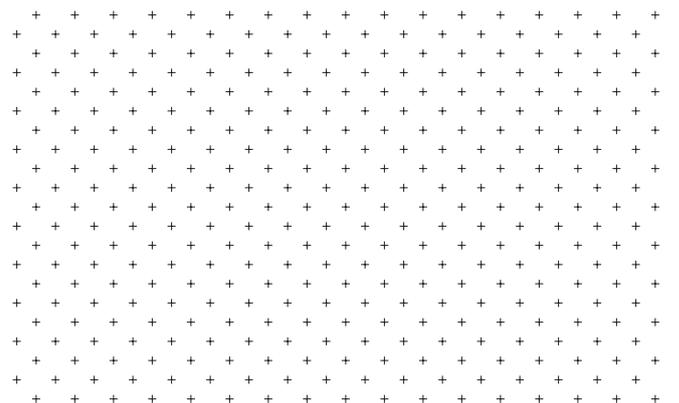
仲間づくりの意義をわかりやすく説明していただいたと思いました。

グループディスカッション

私のグループには、佐賀大学教授もいらっシャって、また、福岡同友会代表理事、報告者の真栄田さん、尾崎佐世保支部長とて快活なディスカッションとなりました。経営計画発表会はやっておられるところは、会場を設けて発表される所と、自社でされる所がある理由を聞きました。会場を借りてやっていたが社員の自主性が見えてきたので自社でしているとお話があり、そこまでいければいいと思いました。

不離一体を自社でどう実践していくか、また、役員として運動のために支部でどう連携していくか。というテーマでした。グループの方々には経営計画、理念、指針の大切さから、同友会の仲間づくりとはの会話から、不離一体とは同友会での気づき、勉強をもとに実践した、同時に同友会を発展させていくことの意義と重なることを学びました。

それぞれ、悩みが交差しましたが、人材は共同求人、経営計画、指針づくりなどは勉強会、そして、学んだことは実践していき、同友会から、同友会へも落とし込んで仲間で解決していくという姿勢が一番正しいこと私は再認識いたしました。良い機会を与えていただき感謝申し上げます。



佐世保支部 尾崎 彰宣

今回の研修2日目に、愛媛同友会が取り組んでいる条例づくりの報告がありました。具体的な取組みや何のために条例制定・推進運動を進めているのかが主な内容でした。

これまでの条例づくりの事例と異なることは、愛媛同友会が教育に着目したことです。日本は、戦前戦後を通して、大企業志向や安定志向に偏った職業観が植え付けられています。中小企業並びに地域の発展において、この職業観を変える教育が必要と感じ、中小企業団体として全国で初めて、松山市の中学校での職場体験実習を行い、また大学とのインターンシップなども実施されてきました。また、条例に基づく円卓会議の中に同友会が担当する「人育ち応演部会」が設置されその成果として、「未来デザインゲーム」というテキストが学校で使われるようになってきました。そこには、同友会の力だけでなく、産学官+民の連携があってからこそ、成し得たものでした。しかしながら、それまでの道のりは、決して平坦なものではなく、報告された3人の同友会メンバーの本気さが産学官+民の

心を動かしたと感じます。特に専務理事の鎌田さんが病気を患いながらも自分の信念を曲げずに知恵をふりしぼり行動していく姿勢には、人間の生き様というものを感じました。

また、条例制定・推進運動の価値として、条例は地域社会の人たちが、ブラック企業と地域社会の維持発展になくてはならない企業とを見分ける評価基準となり、条例運動が進めば、地域社会が中小企業を評価する力をもつという点があります。よって、我々は今まで以上に「人を生かす経営の総合実践」を率先して行わなければなりません。よって、同友会運動の延長線上に条例運動があり、「よい経営環境」をつくるべく同友会運動の最高到達点が条例運動であるという認識を今まで以上にもたなければならないということです。

今まで、条例運動においては、正直報告を聴いてもあまり理解ができず、条例運動から逃げている自分がいまいましたが、今回の報告により、条例づくりの重要性と条例運動のすべては同友会の運動に繋がっていくものだということを学びました。我々の支部においても、条例づくり運動の機運を高め、今後取組みを今まで以上に推進していきたいと思えます。

事務局 山田 幸司

「毎回思いますが、全国大会・交流会の中でも、これほど質の高い研修会はないですよ」と同グループの皆さん誰もが口を揃えて述べられていました。それは、高い次元で共通認識を持つ役員の方々の集まりだからこそだと思います。

全ては「人」。同友会運動は、「労使見解」を核として今日まで形成されて来たのは周知の事実です。

愛媛同友会専務理事の鎌田さんは、「条例運動は、約60年における同友会運動の最高の到達点」、また、「条例は、同友会運動の総合実践」と述べられました。同友会運動の延長線上に条例運動があるという認識を持つことが大切だということです。

また、同友会運動に関して、「支部長は『支部』だけでなく、理事として『県』に見識を持つ。代表理事は、『県』だけでなく、中同協幹事として『全国』に見識を持つ必要がある。」とも強調されていました。

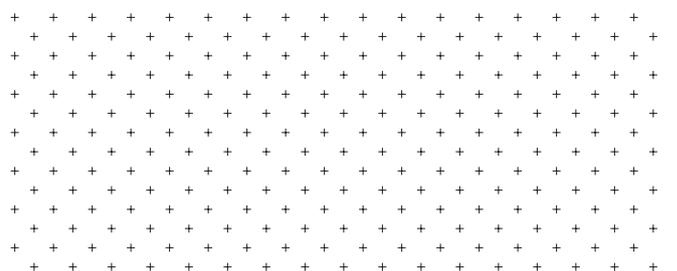
企業にあてはめれば、「経営者は自社と業界に見識を持つ。幹部社員は自社の経営に見識を持つ。社員は仕事に見識を持つ。」ということです。地域に根ざし、地域に必要とされる企業となるべく、各人が一段上からの視点でものごとの本質を捉えれば、自ずと主体者となるということです。

そして事務局に対しても、「一年の仕事を10ヶ月

でこなし、条例問題に取り組む。また、役員は、事務局がそうせざるを得ない状態にしなければならない」とも述べられました。確かに、覚悟を決めて取り組まなければ、日々の業務に追われてしまい、一年はあつと言う間です。事務局としても目標設定を明確にして、視野を広げると同時に一歩ずつ着実に業務に邁進していかなければと改めて思いました。

「何のための同友会なのか!？」と、役員の方々の皆さんを中心として全会員の皆さんが日々真剣に本気で問いかけ合えば、同友会運動が格段に拡がり前進することは間違いありません。本業あつての同友会であることには違いありませんが、「同友会運動と企業経営は不離一体!」、足元を見つめ直し、同友会運動に取り組むことで、自社が発展し、それがさらには地域貢献に繋がるという訳です。ぜひ、会員の皆さんにはこのテーマを深掘りしていただきたいと思えます。

3年振りとなりましたが、参加させていただき本当にありがとうございました。



中同協 中小企業憲章・条例推進月間キックオフ集会および総括会議 参加報告

開催日時：6月7日(火) 13時～17時 場所：衆議院第一議員会館 大会議室



政策委員長 宮田 正一

羽田空港からモノレールで浜松町、山手線で一駅の新橋、蒸気機関車のある公園あたりからタクシーで730円、千代田区永田町、威厳のある国会議事堂を過ぎると、目的の衆議院第一議員会館に着いた。

2010年6月18日、民主党政権時代に閣議決定された「中小企業憲章」、この進捗状況を国政の場で検証し、国会議員の認識を深め、閣議決定からさらに国会決議の実現への推進力とすることを目的として、このキックオフ集会が開催され、昨年に続き参加した。

併せて、本集会は、「中小企業憲章・条例推進月間」のスタートを宣言する取り組みと位置づけ、全国の同友会に憲章・条例推進運動を呼びかけ、またその具体化のため、他の経済団体との連携を深める場でもある。

第一部では、中同協から主催者挨拶、趣旨説明に続き、豊永厚志中小企業庁長官の「中小企業憲章の理念

に基づく中小企業政策の具体化」と題しての講演、その後連携を図る、日本商工会議所、全国中小企業団体中央会、全国商工会連合会、全国商店街振興組合連合会の4つの団体の取り組みが報告された。

そして、実践事例として、岩手同友会と愛媛同友会からそれぞれ報告があった。特に愛媛同友会の「中小企業振興基本条例制定とその後の運用について」はたいへん参考になる事例で、今後さらに情報収集し、長崎でも活かしていければと考えている。

第二部は、「中小企業憲章の具現化について」→各党の衆参国会議員からの発言と続く。経済産業委員会のメンバーを中心に、衆議院議員から14名、参議院議員から4名の発言があった。今回は、国会閉幕後で次の参議院議員選挙前ということで、参議院議員の先生方は、多くが地元張り付いているようで、参加が少なかったようだ。その中で、地元長崎県からは、衆議院議員 高木義明 民進党副代表、衆議院議員 北村誠吾 TPP特別委員会委員、参議院議員 古賀友一郎 自民党参議院副幹事長の3名が参加された。

最後は、総括会議。全国の同友会からそれぞれの取り組み等報告があり、長崎同友会としては、7月に予定している長崎県産業労働部との意見交換会を、今回は共育委員会と連携して、「人」をテーマに開催することなどを報告した。

終了後の九州・沖縄ブロックからの参加者との懇親会も盛り上がり、たいへん有意義な時間となった。

事務局次長 峰 圭太

中小企業憲章が閣議決定され、第6回目となる今回のキックオフ集会是例年通り中小企業庁長官や商工4団体からの事例報告、同友会から実践事例報告がありました。また与党、野党の時間に分かれ各国会議員の方からも挨拶をいただき、あらためて憲章の理念を条例に生かし、企業づくり、地域づくり、同友会づくりを確認した集会でした。

総括会議では各県の取り組み事例が報告されあらためてなぜ地域に条例が必要なのか確認しました。今後の展開としては条例制定後具体的にどのように施策に反映させていくか、がカギになるかと思っています。そのためにも地域にとって何が課題なのかを科学的に明らかにし(調査)、しっかりと議論する場をつくる(円卓

会議・振興会議)が必要かと思っています。長崎では大村、松浦、平戸、県に条例が制定されており、うち大村、松浦には振興会議が明文化されています。条例を実効性あるものにするため、再度その必要性を会全体の運動としてとらえる必要があると思います。先日の九州・沖縄ブロックの研修会でもありましたが地域を「プロデュース」する力が問われています。中同協広浜幹事長は最後に、「この憲章・条例運動を推進してきた、また三つの目的を総合実践している同友会だからこそ、この活動を展開する使命感を持つべき」とまとめられました。自分ごととしてとらえ中長期的な視野を持ち、今からできること、今だから取り組むべきことの優選順位をつけ運動に関わっていきたいと思います。

九州・沖縄ブロック代表者会議 及び 中同協 第5回幹事会 参加報告

開催日：6月8日(水) 会場：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター



午前中、九州・沖縄ブロックの代表者会議を経て、午後から中同協第5回幹事会に参加いたしました。経過報告や各審議事項と議事が進み、各地の状況や専門委員会の動きなどが確認されました。中同協の定時総会前、最後の幹事会となりますので最終の議案、予算などの審議も滞りない進行でした。

後半部分では青年部連絡会および各地の青年部(長崎では青年経営者会という名称)の取り組みについて

グループディスカッションを行いました。討論時間が短く、深める内容までは行きませんでした。各地の青年部の動きや在り方等情報交換の場となりました。

将来の各地同友会をけん引する若手経営者(後継者)の活動は、ブロックごとに青年部の大会が催されるなど年々活発になってきています。そのような中、親会(本会と呼ぶ同友会もあるようです)との関わりや決議の流れなど活動を阻害することなく応援・支援する体制や仕組みが必要という議論がなされました。

長崎同友会の青年経営者会は30年の歴史を持ち、多数の卒業生、現在の会員さんも在籍しています。他県同様、将来の長崎同友会をけん引する若手経営者の方々が更なる学びと交流が深まるよう、その活動に積極的に関わっていきたいと思います。私自身、青年経営者会と同年代です。これから共に歳を重ねることになりますのでお互いに切磋琢磨していきたいと思います。

(文責 事務局 峰 圭太)

第19回 女性経営者全国交流会 in 旭川 参加報告

開催日：6月16・17日(木・金) 会場：旭川市大雪クリスタルホール・旭川市神楽公民館

第6分科会

見えてきた、私たちの役割 変わらなきゃ！

(株)かわの 相談役 川野登美子 氏
広島同友会 女性部会担当理事

(有)広島ピーエス 取締役 船田千代美 氏
広島同友会

(株)明販広島東 専務取締役 岡本 昌代 氏
広島同友会 広島4支部 女性部会副会長

(株)キャピタルコーポレーション 代表取締役 村井 由香 氏
広島同友会 広島4支部 女性部会副会長

長崎浦上支部 金田 昭子

広島同友会の女性部会は「女性のための女性だけの経営指針成文化セミナー」を開催されていました。その受講者は経営者本人や経営者夫人、経営幹部とさまざまな立場の方ですが、自社を何とかしたいという思いは共通、「自分が変わる覚悟」「社員と共に歩む姿勢」など、果たすべき役割を学ばれているようで



す。1973年に女性部会が立ち上がった当初は、懇親会の楽しさだけの「同友会ごっこ」でしたと報告されたのにはインパクトがありました。

1976年学びのある部会へと改めようとした時に経営指針、理念が大切だと気づかれ、経営指針は社長が作るものでは？経営者夫人、社員にも必要？という声もあり、まずここから必要性をしっかりと理解していこうと、女性だけのわかりやすい経営指針セミナーの開催に至ったそうです。今回はそのセミナーを受ける前の会社の状況と変化を売上業績の数字レベルでのグラフにした赤裸々な3社の報告でした。

川野登美子さんは、経営指針セミナーを受講して、まず自らが変わらなきゃ、と家族役員から経営の方向

性を1つにということで、早朝のパジャマ会議をされて、訪問販売からショールーム展開に業態改革をされて業績アップを成功されました。

岡本昌代さんは問題は人材育成だと、まず社員との気持ち合わせが大切と、経営指針の発表会を続け、サイクルとなり大きく進化されてきたそうです。

船田千代美さんは、現場で指示する職人氣質の父から承継した会社を、経営指針書を社内チームとなって作成し、みんなで作った社旗を掲げることで意識共有をはかり会社が大きく1つにまとまったそうです。村

井由香さんが座長として、質問形式で3社の体験を赤裸々に引き出していくスタイルでした。

グループディスカッションも本音が飛び出し、全国各地の女性部会の取り組みや、女性ならではの社内の役割について、何をどのように変えようとしているのか、変えなければいけないのかについて熱いディスカッションとなりました。

懇親会は大雪ホールで北海道同友会メンバー自らがもてなす出店形式で北のおもてなしは大盛況でした。

第5分科会

現場から生まれたイノベーション 内なる変化が市場を先取りした！

(株)コマーム 代表取締役 小松 君恵 氏
埼玉同友会 理事



事務局 田口 友廣

小松さんは子育てをしながら働きたいという思いを実現するために、同じ境遇にあった主婦3人で起業。ベビーシッターの業務を始めました。

経営者であれば市場変化・業界の動向・外部環境が気になりますが、小松さん

は現場から生まれる声、社員からの「あったらいいな」に耳を傾けてきました。

起業後は子育てしながら短時間で働ける仕事ということで同じ境遇の方も多く集まりました。

しかし子供の成長など社員の状況変化とともに、様々な働き方の要望がでてきました。小松さんはその声に応えるため、新たな仕事づくりや組織づくりに取り組み、社員の「あったらいいな」を解決する度に仕事が増え、組織の仕組みもどんどん変わっていききました。

また働き方の要望だけでなく、現場から生まれるアイデアも多く、その声を聞き新たなサービスを生み出すたびに組織が強くなり、3名の主婦が始めたコマームは今や社員数270名の会社になりました。

大手にはマーケティング力では敵わないけれど、内側の声をきくことで組織を強く大きく、そして市場を先取りすることができるというお話をいただきました。



2日目は(株)クリエイティブオフィスキュー 鈴井さんの記念講演でした。創業24年を迎え、今や全国的に活躍する個性派俳優(鈴井貴之、大泉洋ら)を要する芸能プロダクションに成長。近年では食や観光など北海道の魅力を映像を通じて全国に伝えたいという思いから、映画「しあわせのパン」「ぶどうのなみだ」を企画しました。

映画製作のきっかけとなったのは、このまま北海道だけで活動を続けてもスキルアップができないという危機感から東京進出をしたことでした。東京で仕事をするにつれ、北海道の良さを東京の人から教えてもらい、「北海道はすごいんだ、伸びしろがあるんだ」ということに気がきます。

そこで北海道の良さを発信していくために映画を製作、ロケ地だけでなく、食べ物や小物に至るまでメイドイン北海道にこだわった映画となりました。

地域によって様々な課題がありますが、自分たちがまず幸せに、そして地域の人を幸せにするという気持ちが根底にあるとブレずに行動することができることを今回の講演より学びました。また、地域の中で話をするとヒントがあり、特に移住者は自分たちの土地の気付いていない良さを教えてもらうことができるということが非常に印象に残った講演でした。

学びが多い2日間でした。参加させていただきありがとうございました。

第4回 景況調査 結果報告

2015年度から開始した長崎同友会の景況調査も第4回目を終わりました。今回から「人」に関する設問を増やし、各会員企業の経営課題に関して今までよりも少し掘り下げた内容に変更しました。過去3回と比較し、回答数も200を超えより具体的な数値に近づいたと思います。今後この調査を継続していくことで前期との比較等を行い、定点観測から課題抽出、施策提言へと繋げていくことができればと思いますので、引き続き回答へのご協力をよろしくお願いいたします。

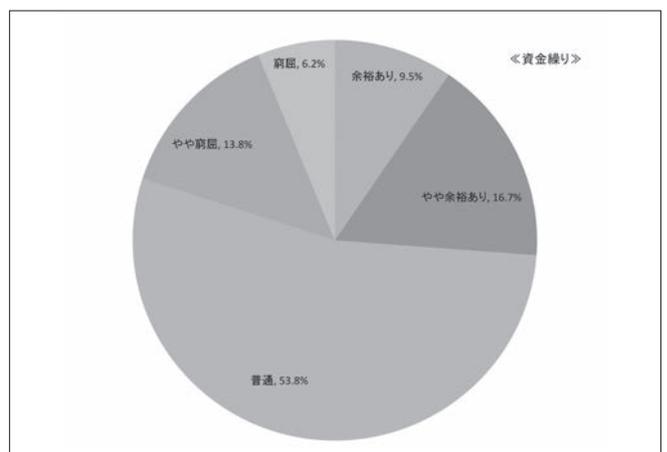
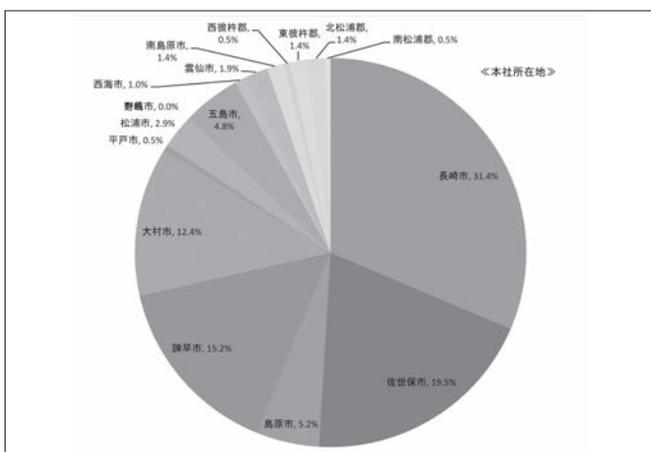
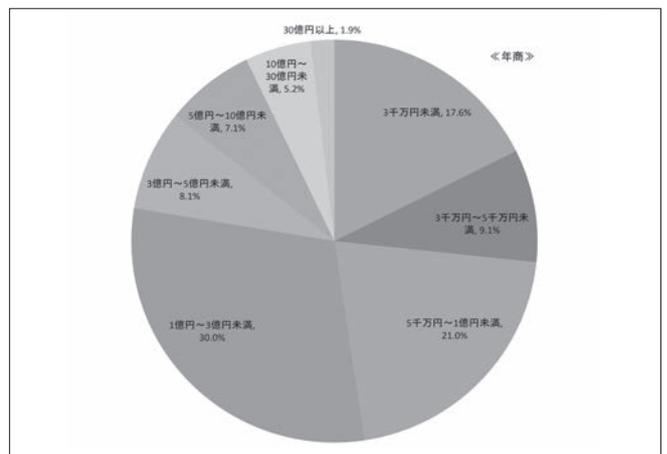
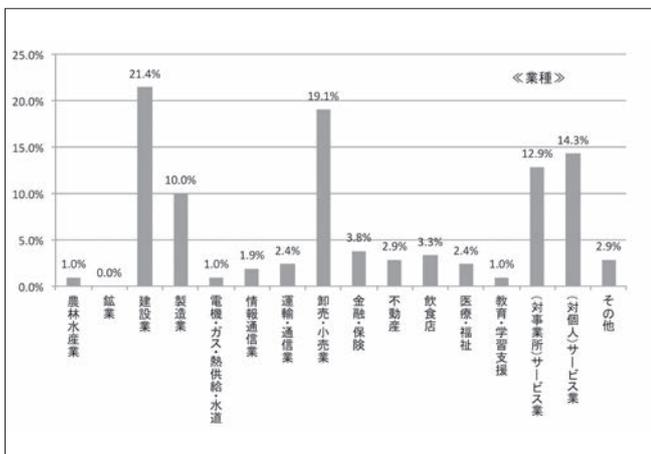
下記簡易的ではありますが傾向を記します。

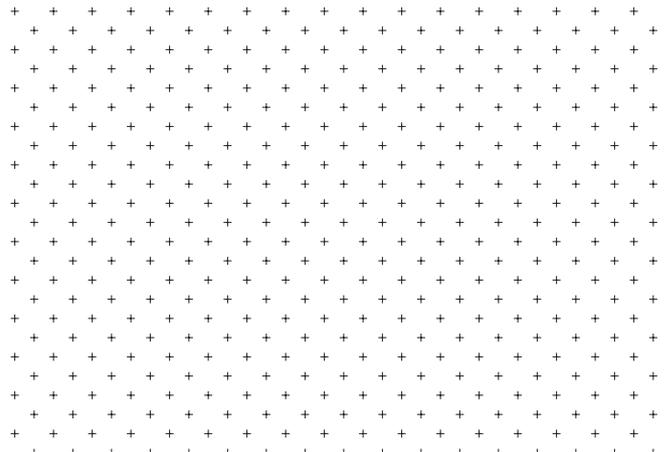
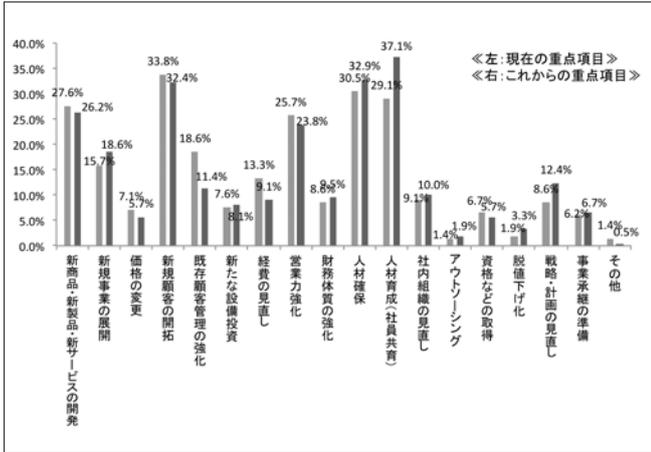
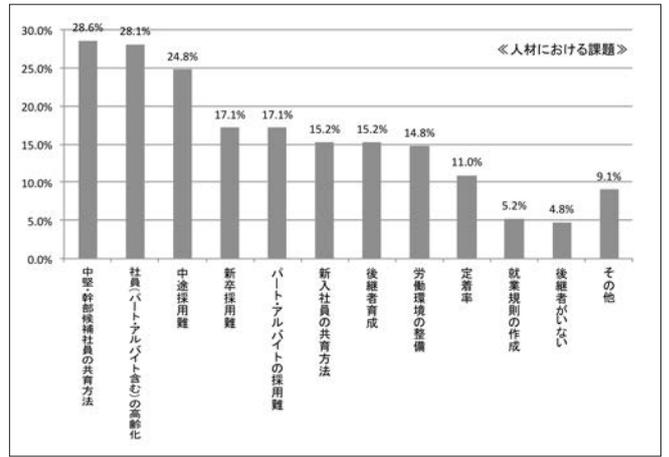
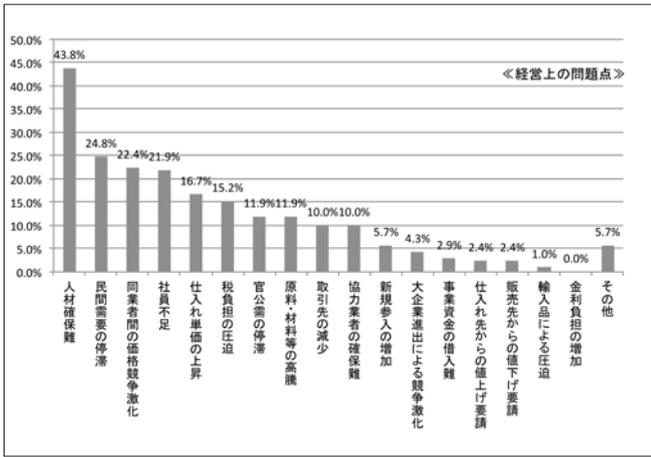
- ・第3回143回答と今回210回答を比較し、業種、本社所在地の割合は大きな変動はない
- ・年商に関して、過去の調査と大きな変化はないが3億円以下の企業が全体の75%を占めている。5千万円以下の企業が25%、5千万円～1億円が25%、1億円～3億円企業が25%
- ・資金繰りに関して、普通という回答が50%、余裕、やや余裕が25%、窮屈、やや窮屈が25%を占める形となっている
- ・本調査期間における経営上の問題点に関して、上位は過去と同様に「人材獲得難」「民間需要の停滞」「同業者間の価格競争激化」「社員不足」「仕入れ単価の上昇」があがっているものの、群をぬいて「人材獲得

難」の割合が過去と比較しても抜きん出ている

- ・現在取り組んでいる重点項目は「新規顧客の開拓」「人材確保」「人材育成(共育)」と続き、これからの重点項目は「人材育成(共育)」「人材確保」「新規顧客の開拓」と続いている。同時に「営業力強化」「新商品・新製品・新サービスの開発」もほぼ同じ割合かつ、高い数字がでていることから、営業力を強化するための社員の共育不足あるいは確保難、新商品や新製品の開発を行いたいものの、関わる人材の共育まで及んでいない、あるいは人材が不足していると考えられる
- ・本調査から開始した人材に関わる回答の傾向として「中堅・幹部候補社員の共育」「社員の高齢化」「中途採用難」が上位にきていることから、社員の高齢化に伴い、既存中堅、幹部候補社員の共育を検討するもののその方法について悩み、また即戦力としての中途採用にも苦戦していると推測される
- ・社員数に関して、経営者一人で社員(パート・アルバイト含む)がいない企業もあり、かつ全社員数が20名未満の企業が全体の7割を占めている

(文責 事務局 峰 圭太)





＜景況感＞

	2015年10～12月期と比べて			2015年1～3月期と比べて			2015年4～6月期と比べて		
	増加	横ばい	減少	増加	横ばい	減少	増加	横ばい	減少
売上高	30.10%	52.40%	17.50%	30.10%	51.50%	18.50%	27.20%	52.90%	19.90%
経常利益	好転	横ばい	悪化	好転	横ばい	悪化	好転	横ばい	悪化
	23.80%	59.70%	16.50%	23.80%	57.30%	18.90%	20.90%	59.20%	19.90%
業況判断	好転	横ばい	悪化	好転	横ばい	悪化	好転	横ばい	悪化
	18.00%	62.10%	19.90%	16.50%	64.60%	18.90%	15.50%	63.10%	21.40%

＜役員を含む正規社員数＞

0人	1～9人	10～19人	20～29人	30～39人
11	122	34	16	8
5.2%	58.1%	16.2%	7.6%	3.8%
40～49人	50～59人	60～69人	70～79人	80～89人
5	2	1	2	3
2.4%	1.0%	0.5%	1.0%	1.4%
90～99人	100～199人	200人～		
0	4	2		
0.0%	1.9%	1.0%		

＜派遣、契約社員を含む臨時・パート・アルバイト数＞

0人	1～9人	10～19人	20～29人	30～39人
68	108	11	4	4
32.4%	51.4%	5.2%	1.9%	1.9%
40～49人	50～59人	60～69人	70～79人	80～89人
4	2	2	2	2
1.9%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%
90～99人	100～199人	200人～		
0	3	0		
0.0%	1.4%	0.0%		

＜全社員数（正規＋パート・アルバイト）＞

0人	1～9人	10～19人	20～29人	30～39人
7	97	47	19	12
3.3%	46.2%	22.4%	9.0%	5.7%
40～49人	50～59人	60～69人	70～79人	80～89人
4	5	2	2	2
1.9%	2.4%	1.0%	1.0%	1.0%
90～99人	100～199人	200人～	300人～	
2	2	8	3	
1.0%	1.0%	3.8%	1.4%	

V・ファーレン長崎



V-VAREN NAGASAKI 応援マット

ダスキン栄進 電話 095-823-7633

瀧川 隆 会員（長崎出島支部）

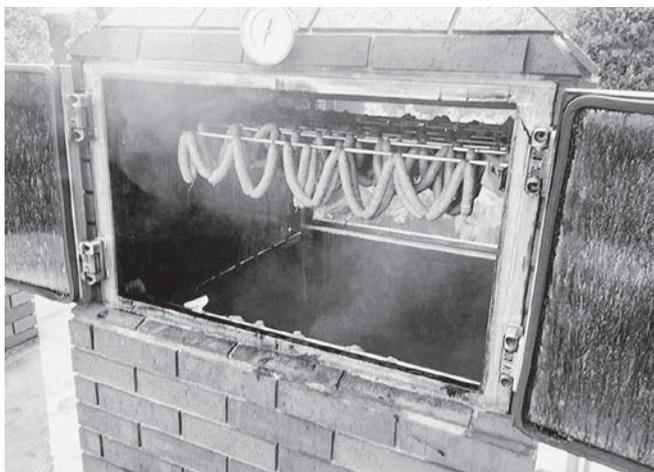
広告募集

＜4cm×9cm＞

複数月	6ヶ月	12,000→10,000
	4ヶ月	8,000→7,000
割引	3ヶ月	6,000→5,000

佐世保支部 第1回 交流イベント 開催報告

開催日：5月29日(日) 会場：長崎浪漫工房



今回は、ウインナー作り体験教室「自分で作ったオリジナルウインナーを食べよう。」ということで、日本ハム川棚工場(長崎浪漫工房)に娘と一緒に参加しました。

出来立てのウインナーは本当においしく、とても楽しい体験で娘も大喜びでした。仕事、経営の事を学べて、おまけに楽しい交流イベントもあり、同友会って最高です。

先日の例会にも、オブザーバーとしてご参加いただいた方と帰りはご一緒しましたが、「先日初めての参加で緊張していましたが、皆さん良い方ばかりで仕事面でもすごく刺激を受けました。こんなに楽しい会は初めてです!!」とおしゃっていました。

本当にたくさんの出会いに感謝です。もっともっと、同友の輪が広がりますように…

片桐イベント部会長、今日は有難うございました!

(文責 村上 敦子)

プライアント(株)(佐世保支部 橋口会員)経営計画発表会 参加報告

開催日：6月10日(金) 会場：九十九島 ベイサイド&リゾート フラッグス

1. (株)長崎地研 村山 隆之

今回一番感じたことは、橋口さんの余裕に満ちた発表態度です。安定感が増した話し方、表情等、今まで以上に素晴らしい経営者になったと感じました。経営計画書も、社内のカイゼンを行い、更にレベルアップするシステムを考え、文章化している素晴らしいものでした。また、社員一人ひとりに光を当て、個人発表は計画書に書いているものを読むのではなく自分の考え意見を発表するものであり、大変良かったと思います。毎年レベルアップしていくプライアント(株)、来年の発表会が楽しみです。ガンバレ橋口久社長!

2. 村上彫刻 村上 敦子

素晴らしい発表会でした!!社員の皆さん一人ひとりが明確な目標・ビジョンを持ち、生き活きと発表さ



れる姿、そして、その姿を温かく見守る経営陣に深く感動致しました。

中でも社員の方が「規律と自由が両立する会社」と誇

らしげに発表している姿が印象的でした。プライアント(株)が右肩上がりに成長されているのは、こういった環境作りに取り組んでいらっしゃる橋口さんの努力の結果だと思います。こんなにも素晴らしい経営計画発表会の司会をさせていただき、本当に有難うございました！！

3. チェンジコンサルティング(同) 宇土 敏郎

今回初めての参加でしたが、2期分の経営計画書がありましたので、昨年より大きく変化されていることが分かりました。特に理念の変更という根底部分の変化は経営者の思いと会社の成長度とが良く解りとても素晴らしいと思います。また、発表会の進め方に昨年度の振り返りが盛り込まれているのは社員さんも確認できたのではと思います。特に新たな取組みの「カイゼン」はコツコツ少しずつ広がっていることが素晴らしいと思います。今期の目標については、具体的でよ



くまとまっていると思います。この取り組みが「自分の子どもを入れたい会社」に必ずつながると思います。社員さんが羨ましい限りです。ありがとうございました。また、新たな目標となる企業として広めていきます。

熊本同友会経営理念入門塾(佐世保支部 村上 敦子会員 報告)参加報告

開催日：6月21日(水) 会場：ホテル熊本テルサ



佐世保支部会員14名、島原支部1名で参加してきました。報告者は我が佐世保支部 村上敦子さんです。

早めに会場入りし、たまたま会場設営の様子を見たのですが、ホテル側にきちんと指示がしてあり、ホテルのスタッフが手際よく設営をしているのに感心させられました。手作りのステージ看板、報告者懸垂幕が掲げられ、受付には、グループ分け、グループ長などを明記した名簿、テーブルプランも、フォーラム並みに用意してあり、主催委員会と、事務局の連携の良さを強く印象付けられました。

村上さんの報告は、佐世保支部例会時より更にブラッシュアップされ、経営指針書の意義、同友会の活かし方などがよく伝わり、これから指針書作りに取り組もうと思っている人の心に響く内容でした。熊本同友会の代表理事も絶賛しておられました。私自身も村



上さんの、先入観を持たず、素直に学び即実践する姿勢に改めて胸が熱くなるような感覚を覚えました。指針書作りに限ったことではありませんが、物事に取り組む際に何かと理屈を求め、座学による理論武装を求め、結局目的地に到達する前に息切れするようなケースが我々には多いような気がします。彼女の行動は、「百の理論より、一つの実践」という言葉を実証しています。

グループ発表である女性会員さんが、「私は、ずっと悩んできた。今日の村上さんの報告を聞いて本当に良かった」と時々声を詰まらせ、涙をこらえながら話をされました。お世辞にも上手なグループ発表ではありませんでしたが、そんな会員さんが、一人いたというだけでも、村上さんの報告は大成功だったと思います。

(文責 山領 進)

長崎県地域経済構造分析に関する講演会 参加報告

開催日：5月19日(木) テーマ：地方創生に活かす地域経済構造分析

報告者：岡山大学 経済学部 大学院社会文化科学研究科 中村 良平 氏

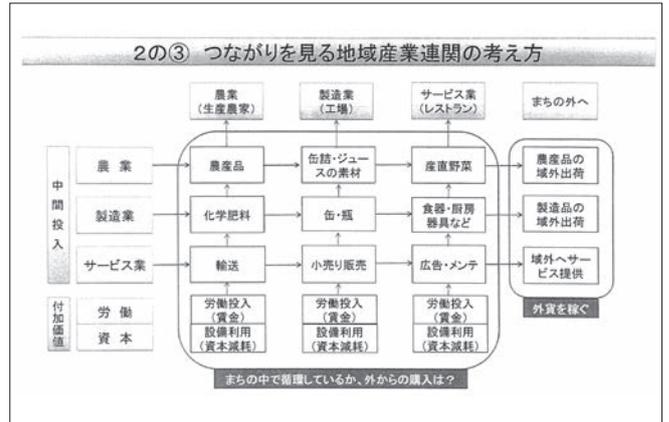
「地域経済構造分析」とは地域経済の歯車を読み解き、空回りをなくすことという意味を持ち、この経済構造分析を地方創生に活かすという内容のセミナーでした。

長崎市、佐世保市という単独のマーケットでものをみるのではなく、「圏域」として隣接する市町村にどれほどの常住就業者数があるのか、つながりを見るために地域産業連関表を用いて「どれだけ、誰から、どこから購入したか」「どれだけ、誰に、どこへ販売したか」などを分析することも一つの視点だということでした(図参照)。

今回、長崎県企画振興部によるセミナーでしたが、今後地方創生の施策においてこのような着眼点で進める可能性もあるのではないかと思います。政策へ反映するための根拠として様々なデータの活用があるかと思いますが、長崎同友会としてはこのような科学的な根拠とともに、各行政との意見交換会等を重ね、また条例制定運動の推進を通して中小企業の生の声を行政

に伝えることの重要性も認識しています。政治色を持たない同友会ですが、政治には興味を持ち地元経済を支える中小企業がさらに活躍できる場面を創ることができるよう、今後も学んでいきたいと思っております。

(文責 事務局 峰 圭太)



資料：長崎県地域経済構造分析に関する講演会

一億総活躍時代の経営戦略セミナー 参加報告

開催日：6月15日(月) 会場：長崎県勤労福祉会館

テーマ：一億総活躍時代の経営戦略 ～ワーク・ライフ・バランスが、なぜ注目されるのか～

報告者：クラスペディア 代表 吉岡 和佳子 氏

現在、各企業には「人材が集まらない」「若手や女性が育たずに辞めていく」等の悩みが尽きない現状があります。そして今後は男性の介護離職が、一層深刻化。24時間、元気に働ける人材は、もはや少数派となる時代になります。

そこで「ワーク・ライフ・バランス」といった仕事と生活の調和を考えることが重要になっています。これは仕事か生活か天秤にかけることではなく、混然一体と調和が取れている状態を表し、本来の意味はワークとライフの触発・相乗効果を狙うものです。

具体的なには「成果を出して、定時に帰る」→「時間あたり生産性アップ」→「日々の着実な自己成長・達成感」→「仕事以外の時間が増える」→「ライフでの自己研鑽・経験が、ワークでの付加価値形成にも生かされ評価につながる」→「多様な人材が活躍、強い組織に」といった好循環のサイクルが見込めます。

また、今後問題となる介護と仕事の両立のポイント

が以下5点です。①介護予防と事前の準備、情報収集 ②親の状態を把握し、価値観を共有する ③家族の協力と外部サービスを活用→特定の人が抱え込まない体制を ④働き方、そのものを見直す！そして ⑤介護休業(法定93日)をどう生かすかが重要であるということでした。

企業として実践するための小さな工夫として、①優先順位を決め、適正時間で終わらせる ②スキマ時間の活用 ③スモールゴール設定で「締切効果」を狙う ④ダラダラ会議はやめる ⑤業務の見直し…無駄を省く、マニュアル化、整理整頓、一人で抱え込まないetc ⑥完璧主義・過剰品質のワナに陥らない、特に三大時間泥棒と言われる「会議・メール・資料作成」の改善が効果的ということでした。

最後に地元のサポート体制として長崎県での取り組み(雇用労働政策課)や国の助成金(厚生労働省/長崎労働局)もありますので、ぜひ利用くださいというこ

とでした。

今後も新たな情報が入りましたら会員の皆様にお伝

えできるように準備を進めてまいります。

(文責 事務局 田口 友廣)

雇用関係各種助成金等説明会 開催報告

開催日：6月22日(水) 会場：長崎ブリックホール テーマ：平成28年度雇用関係各種助成金等説明会

各企業にとって有意義な情報と経営環境に合う助成金を活用することが望ましいと思います。今回雇用関係各種助成金の説明会に参加し、あらためてその数が多いことがわかりました。トライアル雇用、特定求職者雇用開発助成金、高齢者雇用安定助成金など雇用する方の状況に応じて企業経営に合った助成金があるかと思ひます。しかしながらその申請や審査はご存知のように容易なことではないかと思ひます。しっかりと

正しい情報と申請までのスケジュールを理解し、各企業経営に役に立つ助成金の選択をぜひお願いします。詳しくは厚生労働省のHP(「雇用関係助成金」で検索)をご覧ください。

また当日の資料を3部いただきましたのでご興味がある方はぜひ事務局までお問い合わせください。

(文責 事務局 峰 圭太)

会員活躍

長崎新聞 6月29日

長崎浦上支部 山下 修一 会員

マレーシアで県産品販売へ

長崎出身の山下さん



「長崎に貢献したい」と県産品の販売準備を進める山下さん 長崎新聞社

需要の掘り起こし狙う

マレーシアで居酒屋を経営する長崎出身の男性が、現地で県産品を販売する準備を進めている。日本食ブームを追い風に、鮮魚や酒などを扱う県内企業と連携し、需要の掘り起こしを狙う。8月1日の開設に向け、協力企業を募集している。

計画者の山下修一さんら取り寄せた具材でちゃん(44)は同市で介護施設を経営。現地の人が3年前、首都クアラルンプールに移住し、日本食を多く利用するようになった。山下さんは「長崎を元気にしたい。マレーシアでも知名度があるので海外進出の足掛かりに使ってもらえれば」と話している。問い合わせはEメール(teraku.love210@gmail.com)。(山口紗佳)

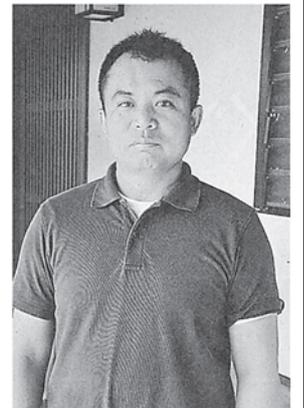
長崎新聞 6月23日

島原支部 内島 範喜 会員

古里の人口減少と経済の衰退に危機感を持ち、島原市や南島原市の仲間と2010年にNPO法人「島原四郎会」を設立し、代表に就任。団体名の四郎は島原の乱で有名な天草四郎に「知ろう」を掛けた。

島原への移住促進に取り組む 内島 範喜さん

住宅面からアプローチ



あの人 この人

原市内の家をリフォーム。移住を検討している人に短期間貸し出している。東京で開かれる移住希望者向けの説明会にも

参加し、PRしている。最近力を入れているのは空き家の問題。空き家管理を引き受けながら、空き家情報をホームページなどで公開する空き家バンクの構築も目指す。他県で既に始めているNPO法人の事例も参考に、売買の仲介まで視野に入れている。

(村田傑人)

事務局企業訪問

五島支部 副支部長 (同)メディアウェブ 勝本 政裕さんにお話しを伺いました。



<起業>

旧福江市で生まれ育ち、高校卒業後に福岡の大学に進学します。その後福岡で就職しましたが、あまりにも素行が悪かった(!?)ため、ある日突然両親が手配した引っ越し屋さんによって荷物の強制撤去、しぶしぶ五島に帰ることになりました。

五島に戻ってからは、リゾート施設のアルバイトや紳士服販売店に15年務めた後に、情報通信業界からのヘッドハンティングにより転職。しかし、いざ働いてみるとあまりにも暇だったということで2年余り務めて退職、このままではいかん!と思い、五島ではまだライバルも少なく、また、離島にいても商売が拓がりそうなIT関連での起業を決意しました。

<事業内容>

独立直後はHP制作やシステム開発を主としていましたが、4年前より五島市と協力し教育ICT化事業(電子黒板・タブレットを使った授業)の取り組みを始めました。また、五島を中心にドローンを使用した空撮もされ、最近では全国ネットのテレビ番組でもその映像が使用されたそうです。

そして1年前より高齢者向けのお弁当宅配事業「宅配COOK123」を新規事業として立ち上げました。きっかけは様々な業界のフランチャイズの資料請求をしたところ請求していないはずの資料が届いたことです。さらにFC本部より「五島に行きますよ」という連絡があり、とりあえず会ってみようかという軽い気持ちで話を聞いたことでした。しかし実際に本部の方と会ってみると五島に関して高齢者人口の推移や介護業界の分析・今後の動向といった資料をしっかりと用意され、驚いたとのことでした。

また勝本さんのお母様も糖尿病で食事に困っている様子を見ていたため、身近にも必要な人がいるし今後五島には必要な事業になるのでは?と思ったそうです。ただ、高齢者向けの食事というと塩分控えめのため、薄味で不評なことが多いのですが、五島で試食会を開いたところ、出汁をしっかりときかせた食材で大変美味しいという高齢者の反応を実際目の当たりにし、新たな事業として取り組むことを決意しました。

やると決めてから店舗のオープンまでに3ヶ月と急ピッチで準備をすすめ、オープン当初は正直反応が悪かったものの、1年が経過してやっとお客さんも定着。これからはさらなる伸びが見込まれるとのことでした。

<同友会との出会い>

以前から同友会という組織があると聞いていた勝本さんは、五島支部ができる3年前に「五島に支部はないのですか?」と知り合いの長崎同友会の会員に聞いたこともあったそうです。そして忘れていたところに同友会の五島支部できるらしいよという話を聞き、同友会を知る会(2回目)に参加。そこで大村支部の宮田さんの報告を聞いて、初めてどういった会なのかを知り、「経営の悩みは経営者なら誰しもあると思うが、同友会なら、支え・力になる学びができるのではないか」と思い、五島支部のチャーターメンバーとして入会されました。



<今後の展望>

同友会に入会して2年半経ち、経営理念の必要性を感じ、経営理念は自社の会社の正解を見つける羅針盤だと思ふようになりました。しかし、現在は2つの事業が柱としてあり、お弁当宅配事業は地域に対して、IT事業は主に企業に対してと、両方の性格が違うため経営理念を作ろうとした時に2つの事業を落とし込む言葉が見つからず、まだ経営理念ができないということでした。

しかし経営理念はまだありませんが、今回お話しをうかがう中で勝本さんの胸の中にあるとても熱い想いに触れ、きっと近い将来に経営理念は完成するのではと感じました。どういった経営理念が出来上がるのか非常に楽しみです。

また、今後は宅配の食数を伸ばし地域のお客さんを助けていくこと、IT事業は五島市にとっては新業種・新しい可能性なので、五島でもこういう仕事ができる

と実証していきたい、そして社員が胸を張って働ける会社にしていきたいと最後に語られました。

今回は長時間のインタビューありがとうございました。インタビューの中で「子供の頃からパソコンやラジコンが好きで趣味として続けてきたら、趣味も究めれば仕事になった」と語る勝本さんの仕事観がたいへん印象的でした。そして今度は趣味の釣りも仕事にすることを考えてらっしゃるということで、今後の勝本さんのご活躍がますます楽しみです。

<会社概要>

(同)メディアウェブ

五島市武家屋敷1丁目5-35

TEL: 0959-74-1030 FAX: 0959-88-9106

URL: <http://mw.gotoshi.net/>

(文責 事務局 田口 友廣)

新入会員の皆さんです<6月入会・交代>

(敬称略)

<入 会>

支 部 名	大村支部		
氏 名	はまさき のぼる 濱崎 昇		
企 業 名	(株)光塗装		
役 職 名	代表取締役		
企 業 住 所	〒856-0018 大村市今富町485		
T E L	0957-55-7886		F A X
業 種	塗装業・飲食業		
企 業 P R	大村では「ギャッツビー」というダイニングバーを経営しております。ゴルフシミュレーター・カラオケを設置し、ドリンク&フードメニューも豊富に取り揃えております。是非ご来店下さい。		
スポンサー	吉尾 明美		

支 部 名	島原支部		
氏 名	いふく けんごう 伊福 賢剛		
企 業 名	(有)しまばら保険AGT		
役 職 名	代表取締役		
企 業 住 所	〒855-0851 島原市萩原1丁目1230-32		
T E L	0957-63-2676		F A X
業 種	保険代理業		
スポンサー	横田 耕詞		

支 部 名	北松浦支部		
氏 名	えとう ちひろ 江頭 知裕		
企 業 名	L'ECRIN(レクラン)		
役 職 名	代表者		
企 業 住 所	〒857-0311 北松浦郡佐々町本田原免 130-2-102		
T E L	0956-76-9512		F A X
業 種	オーダースーツ販売・貸衣裳業		
企 業 P R	オーダースーツ・オーダーシャツを作っています。貴方に似合う最高のスーツを作ります。結婚式衣裳は私にらせてください。		
スポンサー	立木 良宗		

<交 代>

支 部 名	大村支部		
氏 名	わたなべ まさひろ 渡邊 雅大		
企 業 名	弁護士法人大村総合法律事務所		
役 職 名	弁護士		
企 業 住 所	〒856-0826 大村市東三城町12-4		
T E L	0957-54-3750		F A X
業 種	法律事務所		
企 業 P R	みなさんの想いに応えられる弁護士を目指し、日々活動しております。お気軽にご相談下さい。		
前 会 員	古市 寛		

8月例会案内

●長崎浦上支部

日 時 8月24日(水)
会 場 サンプリエール
内 容 納涼例会

●長崎出島支部

日 時 8月17日(水)
会 場 サンプリエール
テ - マ 江戸時代の商人に学ぶ心構え等
報 告 者 (同)ねこのて サービス提供責任者
中尾 由花 会員

●大村支部

日 時 8月18日(木) 18:30
会 場 おおむら夢ファームシュシュ
内 容 家族親睦納涼例会

会員ご家族の皆様へ日頃の感謝の気持ちを込めて、また会員相互の親睦を深めることを目的とし納涼例会を開催いたします。

●諫早支部

日 時 8月17日(水) 18:30
会 場 諫早観光ホテル 道具屋
テ - マ 未定
報 告 者 (株)宮崎電機工業 代表取締役
宮崎 清紀 氏

●島原支部

日 時 8月23日(火) 19:00
会 場 HOTELシーサイド島原
テ - マ 小規模事業の挑戦
~地域活性の要は個店にアリ!~
報 告 者 炉ばた大和 代表者
林田 元博 会員

豪華客船のコックだった父が脱サラして始めた小さな居酒屋に開業と同時に入店。今年の8月8日で24年目に突入しました。地域の仲間達と地域振興に関わりながら、様々なことを学ばせてもらい、自分なりに見聞を広げている途中です。外部

環境や内部環境に振り回されたりもしますが、地域に根差しお客様にご貢献して頂いています。経営のことなんて全くわからないのに、地域の仲間達に背中を押されて同友会に入会いたしました。入会3カ月目のスピード報告で経営理念とか壮大なビジョンとか語れませんが、これまでの足跡とこれからの自分なりの進み方をお話しさせていただきます。精一杯頑張りますので、宜しくお願ひします。

●佐世保支部

日 時 8月19日(金)
会 場 九十九島ベイサイドホテルフラッグス
テ - マ 納涼例会 & 同友会を知る会
報 告 者 (株)三好製作所 代表取締役
三好 幸司 会員(香川同友会)

●北松浦支部

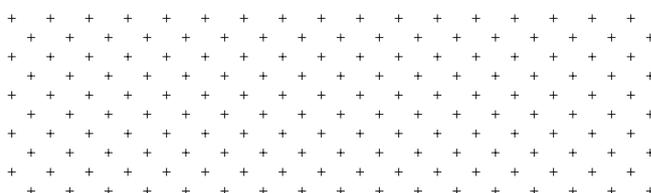
日 時 8月25日(木) 18:30
会 場 サードベースカフェ
内 容 納涼例会

●五島支部

日 時 8月19日(金)
会 場 未定
内 容 納涼例会

●青年経営者会

日 時 8月27日(土)
会 場 未定
内 容 サマーイベント



投稿募集のご案内

DOYU ニュースでは会員の皆様の投稿を募集しております。
企業訪問や支部・地区会等の行事や取り組みなどご紹介下さい。

●文字数/約 500 字

●画像/歓迎します

掲載/情報広報委員会にて選考

投稿先/情報広報委員または同友会事務局まで

メール/jimu@nagasaki.doyu.jp



折込サービスのご案内

会員企業の皆様で制作されたチラシを広報誌と一緒に会員に配布するサービスを行っています。

毎月10日迄に事務局宛お届け下さい。発送は毎月15日~20日に行います。支部指定も出来ます。

A4チラシ1枚5円です。A3チラシは2枚分となります。ご利用お待ちしております。

7月理事会 議事録 抜粋

7月7日(木) つくば倶楽部

開会挨拶 - 松尾代表理事

6月はキックオフ集会等、多くの行事に参加しました。熊本の復興は進んでいません。もっと応援していかなければなりません。自分たちが課題をひとつひとつクリアしていきましょう。

仲間づくりについて

- 6名の入会、3名の退会、1名の交代、2名の変更を承認

西山仲間づくり委員長総括 -

各支部勉強会やセミナーを行い仲間づくりにも取り組んでいます。仲間づくり委員会も各支部の例会に参加して顔を売り、なぜ仲間づくりが必要なかを浸透させていきます。そして経営フォーラムを成功させ、そこから一気に700名に近づけましょう。また、プラスワン運動を浸透させていきましょう。各支部長が役員会でプラスワンに手を挙げていただけの方を集計して、次の理事会でご報告ください。

(松尾代表より)長崎プラスワンをぜひフォーラムまでにご協力をお願いします。きちんとカウントをすることで具体的な数字も見えてきます。

協議・承認事項

1) 第23回経営フォーラムについて

(前回までの決定事項)

10月6日(木)シーハットおおむら、記念講演 - 法政大学坂本 光司氏、4分科会、懇親会会場はパークベルズ
テーマ案「長崎の明日(みらい)を切り拓くのは、人を生かす経営の実践だ!!」

- ・組織図
- ・行程表

	第1分科会 (経営戦略)	第2分科会 (社員共育)	第3分科会 (障がい者雇用)	第4分科会 (経営指針) ※見学分科会
報告者	熊本同友会 田中 芳和 会員	長崎出島支部 土井 幸喜 会員	大村支部 宮田 正一 会員 きらく大村 丸山 和美 氏	大村支部 徳田 信義 会員
座長			長崎出島支部 中村 公 会員	
室長	大村支部 竹中 会員	大村支部 吉尾 会員	大村支部 北村 会員	大村支部 出口 博 会員

・各支部動員目標数

支部	浦上	出島	大村	諫早	島原	佐世保	北松浦	五島	合計
目標	35	35	65	52	38	45	25	5	300

(今回提案事項)

- ・予算案(参加費7,000円、名刺広告2,000円×133口)
- ・県からの予算自体が少ないのではないかと。7000円の参加費ではオブザーバーが誘いづらい
- 予算等を承認(名刺広告を募る事を賛成多数で承認)。広告費は名称変更

※経営フォーラムのあり方(経営フォーラム予算、県からの予算等)は今後、検討する場を設ける

チラシ内容等の方向性は承認。

- ・第1分科会座長(熊本同友会:田崎氏)、第2分科会座長(長崎浦上支部:松本会員)、第4分科会座長(大村支部:金井会員)
- 上記を確認
- ・各分科会報告テーマ
- 第1分科会…「経営指針の作成と自己と自社の成長」
～我社の経営戦略は社員の力の集結につきる～
- 第2分科会…ミッション経営の実現
～人は「何を」ではなく「なぜ」で動かされる～
- 第3分科会…小さな一歩を踏み出しました
～初めての障がい者雇用～
- 第4分科会…経営指針
～豆腐業会ナンバーワン企業を目指して～
- 上記を確認
- ・名刺広告について
- 割り付け、入稿の締切等を鑑み、名刺のみとし、一人最大2枠とすることを承認

2) 例会委員会からの提案について

例会委員会からの代理出席、全国大会参加の際のカウント方法の提案を承認(2017年度からの適用とする)
※社員の参加はオブザーバー扱いとし、出席率においても代理出席とカウントしない

3) 情報広報委員会からの提案について

情報広報委員会からの広報誌配布方法(受付配布→座席配布)、HP修正案を承認。HP修正の費用は特別活動費より捻出する

4) 9月10日(土)役員研修会について

(前回までの決定事項)

9月10日(土)13:00～諫早道具屋にて開催

- ①同友会の歴史と理念…泉相談役、②企業内実践と企業づくり…金井副代表、③それらを受けて総括と役員役割、同友会の組織づくり…松尾代表からそれぞれ報告いただく(今回確認・提案事項)
- ・式次第案、案内、予算案を承認

5) ながさき女性活躍推進会議への登録について

(三役会案)

主旨賛同会員に同友会として登録する。また各会員企業全社登録に向けてアナウンスを行う
・各会員企業へのアナウンスはe.doyuで行い、その際に主旨、法律、経緯について記載する

報告・連絡事項

- 1) 6月 県本部・各委員会・各支部等の活動状況について
- 2) 例会について(更なる例会の充実をめざして)
- 山口例会委員長
第2回委員会を佐世保にて開催。第1回に引き続き、多くの方に参加いただきました。第2部は懇親会の冒頭に行いました。改善点等はぜひ佐世保支部の役員会で検討をお願い

いします。6月は返信率が全支部で80%を超えています。大村・島原支部に関しては会場が諫早のため出席率が低くなっていました。五島支部の出席率の低下が気になります。全体的には今期に入り出席率と返信率は右肩上がりです。7月は第3回の委員会として島原支部にうかがいます。よろしくお願ひします。

3)中同協 主要行事の紹介

4)中同協 憲章・条例推進本部担当役員について…宮田政策委員長を推薦

5)「公平な税制をめざして」資料について
→作成の経緯、今後の勉強会をまず理事会時に行う(11月理事会予定)

6)6月理事会時公正取引委員会との意見交換会を受けて
→今後動きがあれば随時、報告します

7)6月7日(火)中同協 中小企業憲章・条例推進月間キックオフ集会参加報告(松尾代表理事・宮田政策委員長・峰事務局次長)
(松尾代表理事)6回目のキックオフ集会が 衆議院会館で開催。中小企業庁長官より施策の説明もあり、今後まず我々が勉強を続けていく必要を感じた

8)6月8日(水)九州・沖縄ブロック代表者会議および中同協第5回幹事会参加報告(松尾代表理事・峰事務局次長)

9)6月15日(水)一億総活躍時代の経営戦略セミナー参加報告(田口事務局員)

10)6月21日(火)佐世保支部：村上会員 熊本同友会報告の件
→熊本同友会経営理念入門塾で報告。熊本同友会からの謝礼・交通費をそのまま義援金としてお渡しされた

11)6月22日(水)助成金セミナー参加報告(峰事務局次長)

12)6月27日(月)人材育成産学官コンソーシアムWG参加報告(峰事務局次長)
→(峰事務局次長)キャリア人材育成のWG。今期継続して協議を行う。県としては最も成果がでるところから取り組むということで、WGの場で同友会としての意見を述べた

13)7月4日(月)留学生支援センターセミナー参加報告(峰事務局次長)

→2,000人の留学生を3,000人に増やし、留学生を活用したビジネスを行おうといったセミナー。随時追加の情報が入り次第、報告します

15)会費3ヶ月滞納者について-なし

16)その他

・(尾崎支部長)8月19日の例会では香川同友会の三好さんから報告いただきます。香川全研の分科会で報告された方です。大変学びの多い例会になるかと思っておりますので各支部案内をさせていただきますので宜しくお願いします

・(馬場支部長)6月23日ダイヤモンドクラブの総会が開催されました。総勢16名の参加。島田さんも参加され、現在は91歳、同友会歴は44年になるそうです。懇親会では和気あいあいとした雰囲気でした

・(峰事務局次長)父の葬儀に際し、皆さまから温かいお気持ちをいただきありがとうございました

留意事項

1)2017年 中同協役員研修会について-5月開催予定。今後は代表者会議で進捗を協議する
→大村での開催を決定(2015年11月理事会)

2)2019年中小企業問題全国研究集会(全研)について
ニュー長…立食1000名、椅子800名、分科会対応約5室
ベストウエスタン…立食1000名、椅子900名、分科会対応最大6室

※中同協確認事項最大1000名(上限を設ける)でも全国大会開催可能

→長崎市で開催することを決定(2015年11月理事会)

※実行委員長の検討開始

閉会あいさつ-五島支部 勝本副支部長

五島からWEBではなく初めての直接の参加で理事会の雰囲気を感じる事ができました。良くも悪くも柔軟な話し合いのうえに、協議がなされ、長崎同友会はまだまだ発展するのではないかと感じました。この雰囲気を五島支部にも持ちかえり、さらなる発展につなげていきたいと思ひます。

※次回日程-8月4日(木) 19:00~つくば倶楽部

会員消息

会 員 数 (7月1日現在)

	浦上	出島	大村	諫早	島原	佐世保	北松浦	五島	合計
目標	138	115	80	100	70	145	55	32	735
期首	113	88	68	73	56	122	44	25	589
現在	110	86	69	72	58	120	44	25	584

●企業住所等変更

永木 保史 会員 (諫早支部) 中村 光力 会員 (大村支部)
新住所: 〒854-0053 新住所: 〒856-0812
諫早市小川町1267 RDビル2F-A 大村市桜馬場2丁目475-12

退会者 (敬称略)

会員名	会社名	支部名	入会年月
馬渡 孝浩	(株)馬渡農園	諫 早	2016年 3月
北 克子	BONNE SANTE	佐 世 保	2007年11月
出端 徳昭	ホーランドビレッジ(株)	佐 世 保	2015年 8月